

2階『奄美のサンゴ礁』を拡充し、新たな奄美の生きものを紹介する『いのちめぐる森』がオープンします



マリンワールド海の中道は2017年4月に「九州」をテーマに全館リニューアルしてからも、定期的に展示を見直し進化し続けています。この度、2026年3月17日（火）に2階『奄美のサンゴ礁』ゾーンが拡充され、『奄美の海と森』として新たにスタートします。

ここではこれまで、奄美の海にスポットを当て碧い海に広がるサンゴや色鮮やかな海水魚を展示してきました。今回新たに奄美群島の緑の森に暮らす生きものと、海と川が交わるマングローブ域や河川域に暮らす生きものを展示する『いのちめぐる森』コーナーが加わります。このコーナーでは、爬虫類、両生類や昆虫類など様々な陸上生物を展示し、水槽や背景には現地の植物を配置して奄美の森の様子を再現します。特に注目は奄美大島で生態系の頂点に君臨する毒ヘビ『ハブ』の展示です。これらの生きものから奄美群島の生物多様性を感じていただけたらと思います。

また、奄美群島の成り立ちや希少生物保全についても紹介し、奄美群島の生物の現状についても知っていただく場になります。九州唯一の亜熱帯域、奄美群島をよりいっそう身近に感じられる空間を是非ご堪能ください。

【いのちめぐる森 概要】

奄美群島は数百万年前の地殻変動によりユーラシア大陸と分かれて島々になり、外部の影響を受けにくかったため、ここにしかない陸上生物が数多く暮らしています。また、季節風や台風にもたらされる雨によって高温多湿な奄美群島は、1年を通して葉が生い茂る豊かな森が形成され、たくさんの命を育てています。その特殊性から2021年には世界自然遺産に登録されています。そのような奄美大島に広がる森や、森から海へとつながる淡水域を再現した空間です。

◆ハブ水槽

奄美大島には肉食獣や大型の猛禽類がいないため、ハブが生態系の頂点に君臨しています。島の生きものたちは、これまでハブに適応しながら生き抜いてきました。また、世界でここにしかない貴重な生きものが生き続けているのは、有毒なハブを人々が怖がり、むやみに森林開発を行わなかったからとも言われ、ハブは「奄美の森の守り神」とも呼ばれています。（写真：奄美市立奄美博物館 平城 達哉）



◆淡水域水槽

奄美群島は高温多湿な環境で、降った雨は山の至る所に溪流を作り、奄美の森を特徴づける大きな要因となっています。その溪流を取り巻く環境は変化に富み、多種多様な生きものの共存を可能としています。細流にはハゼ類などが棲み、大きな川や河口域で

は海と川を行き来するユゴイ類やリュウキュウアユ、また一時的に川へ侵入する海水魚などが見られます。

◆3m 水槽、六角水槽

奄美群島に暮らす両生類、爬虫類、昆虫類の多くは、奄美群島や沖縄諸島にしかいない種類です。これらの多くは絶滅の恐れがあり、保護を必要としている種類も多く含まれます。これらの希少種が絶滅すれば生物多様性が損なわれることになり、将来にわたる私たちの暮らしの基盤を失うことにつながるため、国や鹿児島県では希少種の保護の取り組みをすすめています。ここでは、そのような奄美群島に暮らす生きものの展示を通して、隠れるのが上手な生きものをガラス越しに観察し、生態や現状を知っていただき、保護の取り組みも応援します。



◆マングローブ水槽

マングローブとは熱帯・亜熱帯の河口域に生育する樹木の総称です。奄美大島の住用町のマングローブ林は日本で2番目の広さを誇り、山から川を通じて運ばれる豊富な栄養が多く、貴重な生きものを支えています。木々の入り組んだ根元で身を守る小魚、潮が引くと現れるカニ類、そしてそれらを狙う鳥類など、多種多様な生きものが生活しています。

【お問合せ】

マリンワールド海の中道

〒811-0321 福岡市東区大字西戸崎 18-28

Tel 092-603-0400

Fax 092-603-2261

e-mail info@marine-world.co.jp

<https://marine-world.jp>

担当：展示部魚類課 垣野、大西、大野、渋谷、坂上

営業部企画広報・教育担当 藤丸、安達、鈴木

